

製品名: CRF-RII ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09392**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	CRHR2
別名	CRHR2; CRF2R; CRH2R; Corticotropin-releasing factor receptor 2; CRF-R-2; CRF-R2; CRFR-2; Corticotropin-releasing hormone receptor 2; CRH-R-2; CRH-R2
遺伝子 ID	1395.0
SwissProt ID	Q13324
免疫原	抗血清はヒト CRHR2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 71-120

背景

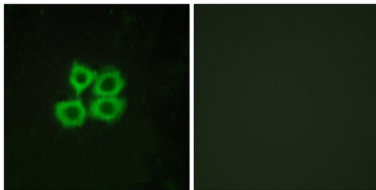
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、G タンパク質共役受容体 2 ファミリー、および副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン

受容体のサブファミリーに属します。この受容体は副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン（CRH）に対して高い親和性を示し、ウロコルチンなどのCRH関連ペプチドにも結合します。CRHは視床下部で合成され、ストレスや免疫刺激に対する内分泌、自律神経、行動の反応を調整する上で重要な役割を果たします。マウスを用いた研究では、この受容体が心血管系の恒常性維持に参与している可能性が示唆されています。この遺伝子については、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが記載されています。[RefSeq提供、2011年1月]、機能：これは副腎皮質刺激ホルモン放出因子の受容体です。CRFに高親和性で結合します。また、ウロコルチンI、II、IIIにも結合します。この受容体の活性は、アデニル酸シクラーゼを活性化するGタンパク質によって媒介されます。類似性:Gタンパク質共役受容体2ファミリーに属します。、

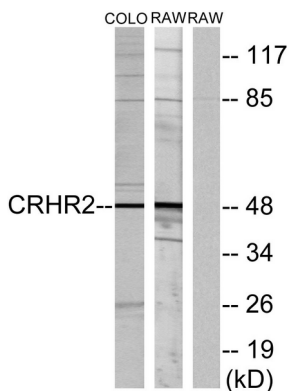
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

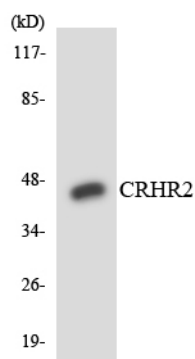
画像データ



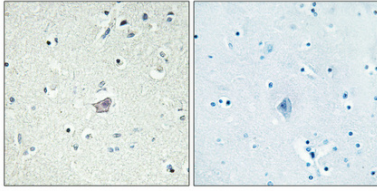
CRHR2抗体を用いたMCF7細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



COLO205細胞およびRAW264.7細胞のライセートをCRHR2抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンには合成ペプチドでブロックされている。



CRHR2抗体を使用したHepG2細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。